

衆議院 經濟産業委員會 會議録 第二号

令和四年十月二十六日(水曜日)

午前九時開議

出席委員

委員長 竹内 讓君

理事 井原 巧君

理事 関 芳弘君

理事 落合 貴之君

理事 小野 泰輔君

理事 石井 拓君

稲田 朋美君

上川 陽子君

佐々木 紀君

鈴木 淳司君

土田 慎君

長坂 康正君

福田 達夫君

堀内 詔子君

堀内 詔子君

松本 尚君

宗清 皇一君

渡辺 孝一君

菅 直人君

田嶋 要君

山岡 達丸君

遠藤 良太君

中川 宏昌君

笠井 亮君

岩田 和親君

細田 健一君

山崎 誠君

中野 洋昌君

石川 昭政君

今枝宗一郎君

國場幸之助君

塩崎 彰久君

武部 新君

富樫 博之君

西野 太亮君

堀井 学君

堀井 学君

牧島かれん君

松本 洋平君

山下 貴司君

大島 敦君

篠原 孝君

馬場 雄基君

足立 康史君

前川 清成君

鈴木 義弘君

西村 康稔君

中谷 真一君

尾崎 正直君

長峯 誠君

里見 隆治君

飯田 祐二君

政府参考人  
(内閣府地方創生推進事務局審議官)

三浦 聡君

政府参考人  
(公正取引委員会事務局局長)

品川 武君

政府参考人  
(林野庁森林整備部長)

小坂善太郎君

政府参考人  
(経済産業省大臣官房審議官)

龍崎 孝嗣君

政府参考人  
(経済産業省大臣官房審議官)

福永 哲郎君

政府参考人  
(経済産業省大臣官房審議官)

田中 哲也君

政府参考人  
(経済産業省大臣官房審議官)

木原 晋一君

政府参考人  
(経済産業省大臣官房審議官)

藤本 武士君

政府参考人  
(経済産業省大臣官房審議官)

恒藤 晃君

政府参考人  
(経済産業省大臣官房審議官)

門松 貴君

政府参考人  
(経済産業省通商政策局長)

松尾 剛彦君

政府参考人  
(経済産業省産業技術環境局長)

島山陽二郎君

政府参考人  
(経済産業省商務情報政策局商務・サービス政策統括調整官)

田中 一成君

政府参考人  
(資源エネルギー庁長官官房資源エネルギー政策統括調整官)

南 亮君

政府参考人  
(資源エネルギー庁長官官房資源エネルギー政策統括調整官)

山田 仁君

政府参考人  
(資源エネルギー庁省工ネルギー・新エネルギー部長)

井上 博雄君

政府参考人  
(資源エネルギー庁資源・燃料部長)

定光 裕樹君

政府参考人  
(資源エネルギー庁電力・ガス事業部長)

松山 泰浩君

政府参考人  
(中小企業庁事業環境部長)

小林 浩史君

政府参考人  
(国土交通省大臣官房審議官)

石坂 聡君

藤田 和光君

委員の異動  
十月二十六日

補欠選任

渡辺 孝一君

補欠選任

松本 尚君

補欠選任

新君

塩崎 彰久君

同日

塩崎 彰久君

同日

西野 太亮君

同日

堀内 詔子君

同日

堀内 詔子君

同日

堀内 詔子君

同日

堀内 詔子君

同日

堀内 詔子君

同日

○竹内委員長 これより会議を開きます。  
経済産業の基本施策に関する件並びに私的独占の禁止及び公正取引に関する件について調査を進めます。

この際、お諮りいたします。

両件調査のため、本日、政府参考人として内閣官房GX実行推進室長飯田祐二君、内閣府地方創生推進事務局審議官三浦聡君、公正取引委員会事務局総局経済取引局取引部長品川武君、林野庁森林整備部長小坂善太郎君、経済産業省大臣官房審議官龍崎孝嗣君、経済産業省大臣官房審議官福永哲郎君、経済産業省大臣官房審議官田中哲也君、経済産業省大臣官房審議官木原晋一君、経済産業省大臣官房審議官藤本武士君、経済産業省大臣官房審議官恒藤晃君、経済産業省通商政策局長松尾剛彦君、経済産業省産業技術環境局長島山陽二郎君、経済産業省商務情報政策局商務・サービス政策統括調整官田中一成君、資源エネルギー庁長官官房資源エネルギー政策統括調整官南亮君、資源エネルギー庁長官官房資源エネルギー政策統括調整官山田仁君、資源エネルギー庁省工ネルギー・新エネルギー部部長井上博雄君、資源エネルギー庁電力・燃料部長定光裕樹君、資源エネルギー庁電力・ガス事業部長松山泰浩君、中小企業庁事業環境部長小林浩史君及び国土交通省大臣官房審議官石坂聡君の出席を求め、説明を聴取いたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○竹内委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

○竹内委員長 質疑の申出がありますので、順次これを許します。関芳弘君。

○関委員 おはようございます。自由民主党の関芳弘でございます。

ないということもあつたり、様々な議論、アメリカでも、実は詐欺まがいのもので不正受給が数千億円かな、ちよつと今正確な数字は覚えていませんが、あつたということもあつて当時は取らなかつたんですが、その代わりに、我々、持続化給付金という形で最大二百万円、これを五兆円以上配つたと思います、給付させていただいたと思ひますし、様々な別の形で、あるいは飲食店への協力金のような形で、別の形で給付はもう既に行つてきておりますので。

そういう意味で、今後、何か緊急のときがあるときは、アメリカのような仕組みも、今回、ゼロゼロ融資も民間にもやってみましたので、そういう意味で、民間の金融機関も活用しながらやるということには私は検討に値するというふうには思つておりますが、今の時点では慎重に考えるべきだと思ひます。

○**落合委員** 時間なので終わりますが、大臣が答弁されたのは二年前にやつた給付で、大臣も今年から、経済を前向きに回すためにはかなり大きな手段であるとも我々も提案させていただきましたし、前に進めていくべきだと思いますので、質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○**竹内委員長** 次に、大島敦君。

○**大島委員** 大島です。何点か質問をさせていただきます。

まずは、塗料について問いを起こしました。去年ですか、私の知り合いが私の元に来て、遮熱塗料についての有効性について教えていただきました。沖縄ですと、冬も含めて結構温度が高いですから、倉庫等の屋根に遮熱塗料を塗ると遮熱効果が出てくる。あるいは、化学プラントですと、熱を帯びますから、その熱に対してそれを防御するために遮熱塗料が有効であるというお話を伺ひまして、これは非常にいい取組だなと思ひました。

その点について、まず政府の方に伺ひたいの

は、塗料の遮熱効果についてどのように考えて把握していらっしゃるのか、その点についての答弁をお願いいたします。

○**恒藤政府参考人** お答え申し上げます。

市販されます塗料の中には、太陽光に含まれます紫外線、可視光線、赤外線のうち、目には見えませんがエネルギーの約半分程度を占めております赤外線を反射するという性質を強化するなどにあります。温度の上昇を抑制する効果を持たせたものがございます。こういった塗料が一般的に遮熱塗料と呼ばれていると承知をさせていただきます。

こうした遮熱塗料は、それを屋根などに塗装することによりまして、太陽光が当たった際の熱の吸収などを抑えまして、温度の上昇を小さくするという効果があるというふうに承知をさせていただきます。

○**大島委員** 参考人に、知っていたら教えてください。

この遮熱塗料について、国の工業規格等の遮熱性に対する規格というものはあるものなんです。これは質問通告していないので、もしも知っていたら教えてください。

○**恒藤政府参考人** 済みませんが、ちよつと正確に私自身、今承知をしてございませんが、私の知る限りでは恐らくないのではないかとこのように思ひます。済みません。

○**大島委員** まず、大臣、遮熱塗料を普及するためにも、恐らく民間では遮熱性についての規格はあるかと思うんです。今後、こういう塗料の普及を図るとすれば、遮熱性についての一定の基準あるいは規格が必要だと思うので、その点について今後検討していただければと思ひます。

国交省に伺ひたいと思ひます。住宅・建築物分野における遮熱塗料の普及促進に向けて取り組むべきと考えますが、国交省としてのお考えをお聞かせください。

○**石坂政府参考人** お答え申し上げます。遮熱塗料などにより日射熱の侵入を低減するこ

とは、特に冷房時のエネルギー消費の抑制に効果があると承知しております。冷房を主に使用する、先生お話しされました沖縄等の地域においては効果が期待できるものと考えております。

省エネ基準、これは評価する手法がございませうけれども、このような日射熱を遮蔽する方法について、現在の省エネの評価方法においてはまだ未整備でございませう。このため、国交省といたしましては、遮熱塗料などの取扱いについて、有識者等の知見等を得ながら、適切に評価方法をどう整備していくかについて、しっかりと検討を進めてまいりたいと思ひます。

○**大島委員** 御答弁ありがとうございます。

経産委員会でも標準あるいは規格についてこれまで質問をさせていただいて、標準、規格が私は大切だと思ふ立場なので、様々な施策の中で標準化、規格化して、そして普及させるということが必要であると思ひますので、国交省の取組も引き続きお願いいたします。

西村大臣に伺ひたいと思ひます。住宅・建築物分野における遮熱塗料の普及促進に向けて、私としては取り組むべきだと思ひますので、大臣の御所見をお聞かせください。

○**井上政府参考人** お答え申し上げます。

遮熱塗料は、委員御指摘のとおり、赤外線を反射することで屋内に侵入する熱を低減するというところでございまして、住宅、建築物の省エネ性能が向上するものもしっかりと存在すると認識しております。こうした性能は特に夏の室温上昇を抑え、冷房時のエネルギー消費の抑制に一定の効果があると承知しております。

過去には、優れた省エネの取組を表彰する制度でございませう省エネルギー大賞というところにおきまして、例えば一般建築資材にも適用できる遮熱塗料が表彰されているという経緯もございませう。

経済産業省といたしましては、遮熱塗料も含めた住宅、建築物の省エネ向上に関する技術動向にしっかりと注視しながら、周知を含めた後押しなど

を行つていくことにつきまして、関係省庁とも連携して、しっかりと検討してまいりたいと思ひます。

○**西村(康)国務大臣** 今、詳細、答弁ありましたが、御指摘のように、省エネは非常に重要でありますし、遮熱塗料、非常に効果があるということでありませうので、今答弁ありましたけれども、関係省庁とも連携して、後押しをどのようにしていくか考えていきたいというふうに思ひます。

○**大島委員** 大臣、先ほど私の方から述べたとおり、住宅あるいは工場等もそうなんですけれども、プラントについても遮熱性は極めて重要だと認識しております。エネルギーのことを考えると、プラント回りも含めての遮熱性の評価、そして遮熱塗料の普及をお願いしたいと思ひますので、よろしく願ひいたします。

続きまして、これから同僚議員も質問をさせていただきます。水素還元製鉄について伺ひさせていただきます。

私、鉄鋼業出身でして、本当に十四年間、日本鋼管、鉄鋼業にお世話になって、一番最初が京浜の製鉄所に三年ほどおりました。大臣はやはり製鉄所へ行かれたことがあると思ふんですけれども、ほかの工場とは全く違つていて、構内バスが走つていて、一周回るのが一時間ぐらいかかつたり、規模の大きな発電所も持つているのが製鉄所です。ですから、一旦、原料ヤードで鉄鉱石と石炭、還元するための、そしてコークス炉があつて、高炉があつて、製鋼工程、そして圧延工程で、もう一方の岸壁から出荷して出ていくというのが鉄鋼業です。

今、世界の鉄鋼業、概略を述べると、粗鋼生産で、二〇一九年で十八・七億トンです。中国が十億トンですから、五三％です。ですから、CO<sub>2</sub>の排出量は中国が一番多いと思ひます。

日本は、私が鉄鋼業にいたときから変わらず、大体一億トン。二〇一九年ですと九千九百万トンで、粗鋼量としては世界の五％ぐらいです。働い

ている従業員が二十万人、総出荷額が十九兆円ですから、産業としては非常に重要な産業だと認識しております。その中で、やはり素材が物づくりに決めていると思っております。鉄もそうですし、非鉄もそうですし、いい素材を持つことが産業全体の競争力を強くします。

日本の自動車産業においても、超ハイテン鋼材だったり、あるいは電磁鋼板だったり、あるいは、鋼管、パイプの出身ですから、製品としては、ですから、油井、油とかガスの井戸を掘る非常に劣悪な環境の中でも、鉄の中にクロム等を入れながら合金を作って、そして耐腐食性を上げてのパイプ、これも日本は強いです。

やはり、日本の火力発電所、一番高効率なのは、これも恐らく旧住友金属さんが開発をした、熱にも圧力にも強い、パイプの性能いかんで火力発電所の性能が決まってくるので、鉄鋼業って結構大切な産業だと思っております。

やはり、コークスを使うので、コークス還元ですから、CO<sub>2</sub>がどうしても出てしまいます。今、鉄鋼業としては、水素還元という非常に大きな取組をしておりまして、その水素還元について、まず政府参考人からの答弁をいただいでから大臣の答弁をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○恒藤政府参考人 今委員御指摘のように、現行の製鉄プロセスでは、高温の熱が必要となるとともに、鉄鉱石の還元には石炭を蒸し焼きにしたコークスを用いる必要がございます。燃料のみならず、原料の消費によって大量のCO<sub>2</sub>が排出いたします。このため、カーボンニュートラルの実現に向けては、これまでとは全く異なる製鉄プロセスを確立する必要があります。

このため、経済産業省といたしましては、二〇〇八年度から民間企業と連携いたしました水素を一部活用する新しい製鉄プロセスを開発するCOURSE50プロジェクトに取り組んできておりまして、既に、小型の試験炉におきまして、当初目標のCO<sub>2</sub>排出量一〇%を上回る二二%削減と

いう成果を上げているところでございます。現在は、その実用化に向けました実証を、グリーンイノベーション基金を活用して進めてございます。

また、さらに、将来に向けまして、CO<sub>2</sub>の排出量を更に減らす技術といたしまして、水素のみで鉄鉱石を還元する水素還元製鉄についても技術開発に着手したところでございます。これは有識者からも実用化の可能性は十分であると評価をいただいております。実現可能性はありますと考へておりますので、その実現に向けて進めるところでございます。

できるだけ早く水素還元製鉄の社会実装を実現すべく、官民連携して着実に研究開発を進めてまいりたいと思へてございます。

○西村(康)国務大臣 大島委員御指摘のように、鉄鋼業、約二十万人の雇用を支える。まさに、自動車産業へも供給しておりますし、幅広い産業のサプライチェーンを支えている重要な産業だといふふうに認識をしております。私の地元兵庫にも神戸製鋼がございますし、旧の新日鉄広畑も近くにございますので、工場も何度か見たことがございます。

御指摘のように、脱炭素化の流れの中で世界に先駆けてこの技術革新に挑戦することで、カーボンニュートラル社会の実現とともに、グローバル市場での競争力の維持強化につなげていくことが必要だといふふうに考へております。

他方、製鉄プロセスの脱炭素化は、欧州、中国などが国を挙げて取組を進めており、国際的な競争が激化しているところであります。

こうした中で、御指摘のように、鉄鋼分野をリードしていくために、まずはグリーンイノベーション基金による水素還元製鉄などの革新的な技術開発、これに一層注力すること。さらに、将来の脱炭素型生産プロセスへの転換に向け様々な可能性の調査、そしてグリーンズチール市場の創出に向けたルール形成、こうしたことに官民が連携して取り組み、他国に先駆けて鉄鋼産業におけるグリーン成長の実現を目指していきたい

いというふうに考へております。

国際的な状況、そしてGX実行会議における議論などを踏まえまして、我が国鉄鋼業の脱炭素化に向けた取組を全力で後押しをしていきたいといふふうに考へております。

○大島委員 先ほど、当委員会の議論の中で、半導体のお話がありました。

半導体、私、一番付加価値があるのは露光機だと思へていて、キヤノン、ニコンが今、最先端のものを作れなくて、今、オランダのASML社、これが、超微細な紫外線による露光機の開発に成功して世界の市場を取っているわけです。ここが売るか売らないかというのが経済安全保障でも必要な分野だと思へていて、日本も、産総研とNEDOは、過去においてこの露光機開発をしていました、キヤノンあるいはニコンも入って。だけれども、頓挫しちゃった。これは政治と政府のやはり後押しがなかったからだと思います。当時の様々な環境の中で、莫大な費用がかかるから研究をやめたしまったかもしれないけれども、やはり抜く力が必要だと思へる。

やはり、水素還元は、やり抜く力を、官も、政府も政治も応援しながら、やり抜いたときに環境が変わるんですよ。そうすれば、世界の鉄鋼業に対しては様々な交渉ができるわけ。CO<sub>2</sub>の排出量をどれだけ減らした鉄であれば、CO<sub>2</sub>の排出量が高いから、それに対してどうやって、じゃ、関税をかけるとか貿易の様々な交渉をするとか、新しい余地が生まれると思へるんですよ。

中国は、五三%の十億トン、二〇〇〇年のときには一億トンぐらいでしたから、相当伸びてきています。ですから、我が国としては、こういう技術はやはりチャレンジして、最後までやり抜く努力が必要だと思へるので、その点、大臣にもお願ひをいたします。

次に移りたいと思へます。

次は、航空機産業の取組について伺いたいと思へます。

ちぬ」という映画があつて、この映画はゼロ戦を開発した堀越二郎氏がモデルの映画でして、この映画を見やすく、そうか、ゼロ戦といへば名古屋だな、名古屋だと三菱重工だということで、三菱重工の工場を見せていただきました。ボーイングの翼を造っている工場、もう一つはロケットを造っている工場、もう一つは自衛隊の戦闘機のメンテナンスをしている工場を見させていただきました。

やはり、航空宇宙産業が、先ほど、自動車が電動化していけば、特に電気自動車になれば、部品の数は本当に少なくなります。本当に、自動車産業も、一番最初の自動車のパテントってメルセデスなんです。メルセデスが一番最初の自動車のパテントを取って自動車を造ったのがベンツなんです。ここももう電気自動車に、内燃機関による車をやめて、大きくかじを切っている。その中で、この航空宇宙産業の広がりを考えると、日本として、是非、このところは諦めないでやってほしいの。

私も、当時、二〇一三年、映画を見てすぐに三菱重工さんを取材、工場見学したときも、当時、MRJについてはなかなかうまくいっていません、延期をずっとしていたんですけれども、私、初めてだからしょうがないなと思へていたんです。YS11で一回造ってから相当期間を置いてのジェット機への参入なので、なかなかすぐにはできないから、それは頑張ってくれという気持ちは持ちながら過ごしてまいりました。

ただ、残念なのは、ここに来て、MRJについて、やめてしまったかなと思へるものですから、まずは政府参考人から、今のMRJ、ジェット機、国産航空機開発、三菱スペースジェットについて、立ち止まっていると僕は聞いているんですけども、どういふ状況なのか、知っていたら教へてください。

○恒藤政府参考人 お答え申し上げます。

委員御指摘の三菱スペースジェットにつきましては、民間による機体開発、それから政府による要素技術開発等の環境整備という役割分担の下、

その実現に取り組んでまいりましたが、新型コロナウイルスの影響による航空需要の激減など、航空機産業を取り巻く厳しい環境の中で、三菱重工によりまず開発活動は、一旦立ち止まり、現在、再開に向けた事業環境の整備に取り組んでいるというふう

に承知をしてございます。  
恐らく行かれた工場、同じだと思いますが、私も工場を視察もさせていただき、当時非常に期待をしていたわけですが、今、状況については審議官から答弁ありましたが、御指摘のように、専門家を入れても、なかなかアメリカの承認が取れないとか、それから、これまで三菱重工、どちらかというと供給する側、サプライヤーでありましたので、いろいろな調達する交渉力、価格がなかなかうまく交渉できないとか、いろいろな要因があるようですので、その辺りも分析しながら、政府として五百億円ぐらいの開発支援をしてきたわけですが、それも十分であったのかどうかということも含めて、様々そうしたこれまでの分析、検証をしながら、やはり航空機産業、経済安全保障の観点からも非常に重要でありますので、また、グリーンイノベーション基金を活用しているような開発も支援しておりますし、また、デジタル技術を用いた航空機の設計、製造技術の開発も行ってきております。

是非、事業者とも対話を重ねながら、御指摘のように、完成機事業、最後までやり遂げると御指摘だと思いますけれども、今は一旦立ち止まっているということだと思えますが、今後必要な対応を検討してまいりたいというふうに考えます。

替えて、中国の中、欧州の欧、中欧班列で物流をする。  
今回は、ラオスー中国鉄道があつて、中国の昆明から、ビエンチャンの首都は、メコン川ですから、メコン川を渡るとすぐタイなので、そこまで内陸部で四百二十キロの鉄道が敷かれています。ですから、中国の戦略としては、この内陸部、インドシナ半島においても物流の拠点を今つくつていまして、ただ、中国は広軌で、広いんですよ、レールの幅が。タイの方は、戦争中に日本が鉄道を敷設したものですから狭いので、一回乗換えが入るので、まだラオス政府の主導権が取れている環境にあります。

やはり政府だけで、でも、多分、前の経産省だったから、役所の方が一生懸命政治を説得しながらどんどん進めていくような感じもしたんだけれども、省としても取組が若干、もうちょっと熱を入れてほしいかと思うし、政治としてもやはりもっと熱意を持ってほしい、もう少し早く国の金をしっかりと投入しながら、飛んだかもしれないし、これだけ円安になれば、航空宇宙産業としては日本が優位に立っているかなとも思うわけですよ。

大臣に見ていらつした熊本の半導体工場なんですけれども、最大助成額は六百五十四億と聞いています。三菱スペースジェットは五百億円の政府の支出だと聞いていて、五百億円ですよ、政府の支出は。三菱MRJの開発に対して政府が助成した金額が五百億円と聞いておりますので、当時としては、WTOとの関係があつたり、様々な規制があつて難しかったと思うんだけど、やはり政治としての応援も足りなかったのかなという反省をしているの。

大臣に最後に質問は、非常にいい取組をしていて、こうやってラオスの百人のビジネスマンをしっかり取材をしておいて、頼まれていたわけじゃないんですけれども、ただ、ジェットロをしっかりと、非常にいい人材が多いものですか、大臣としても後押しをしてほしいなというところの御答弁をお願いします。

コロナ禍そしてウクライナ危機でサプライチェーンの途絶というようなことが起こる中、ジェットロが求められる役割はますます重要になっているというふうに思います。オンラインの商談会もあるでしょう、また、電子商取引もあると思いますし、さらに、足下、中小企業にとっては海外に輸出をするチャンスでもありますし、あるいは海外企業が投資をするチャンスでもありますので、そうした取組を今後効果的に進めるために、御指摘のように、ジェットロの取組をしっかりと応援していきたい。人材育成であつたり、現地政府への働きかけなどを含めて、経産省として、必要な予算、人員を確保しながら、御指摘のように、ジェットロが、しっかりと職員が活躍できるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

ですから、大臣に是非、このために、これまで質問したんですけれども、国交省だって多くの型式承認するための技術者を集め、そして準備をしているので、それが今ほとんどなくなってしまったら、もう一度やるというのが難しくなってしまう状況だと私は思うものですから、やはり最後までやり抜く力ですよ、日本にとって必要なのは。最後までやり抜く力。国内で飛ばせてもいいじゃないですか。最後までやり抜く力ということを、是非、大臣からも力をかしていただきたいなと思うものですから、御答弁をお願いします。

○大島委員 去年私も賛成しました、先般、大臣が見ていらつした熊本の半導体工場なんですけれども、最大助成額は六百五十四億と聞いています。三菱スペースジェットは五百億円の政府の支出だと聞いていて、五百億円ですよ、政府の支出は。三菱MRJの開発に対して政府が助成した金額が五百億円と聞いておりますので、当時としては、WTOとの関係があつたり、様々な規制があつて難しかったと思うんだけど、やはり政治としての応援も足りなかったのかなという反省をしているの。

是非、事業者とも対話を重ねながら、御指摘のように、完成機事業、最後までやり遂げると御指摘だと思いますけれども、今は一旦立ち止まっているということだと思えますが、今後必要な対応を検討してまいりたいというふうに考えます。

○大島委員 ありがとうございます。終わります。

○西村(康)国務大臣 私、当時MRJと呼んで

○大島委員 国会閉会中に海外に、一人か、あるいは二人ぐらいで行つていまして、この間、ラオスに視察に伺いました。

○西村(康)国務大臣 ラオス視察をされて、現地のジェットロの職員がしっかりと活躍しているということをお聞きいただきまして、ありがとうございます。御評価をいただいで、感謝したいと思っております。

○竹内委員長 次に、山岡達丸君。  
○山岡委員 山岡達丸でございます。  
今回、所信に対する質疑の機会をいただきました。今回、所信に対する質疑に当たりました。私たちの会派で、全ての委員会で確認させていただいている事項がございます。経済産業委員会では、私の方から冒頭そのことを質問させていただきました。

○西村(康)国務大臣 私も、当時MRJと呼んで

○大島委員 国会閉会中に海外に、一人か、あるいは二人ぐらいで行つていまして、この間、ラオスに視察に伺いました。

○西村(康)国務大臣 ラオス視察をされて、現地のジェットロの職員がしっかりと活躍しているということをお聞きいただきまして、ありがとうございます。御評価をいただいで、感謝したいと思っております。

○竹内委員長 次に、山岡達丸君。  
○山岡委員 山岡達丸でございます。  
今回、所信に対する質疑の機会をいただきました。今回、所信に対する質疑に当たりました。私たちの会派で、全ての委員会で確認させていただいている事項がございます。経済産業委員会では、私の方から冒頭そのことを質問させていただきました。

○西村(康)国務大臣 私、当時MRJと呼んで

○大島委員 国会閉会中に海外に、一人か、あるいは二人ぐらいで行つていまして、この間、ラオスに視察に伺いました。

○西村(康)国務大臣 ラオス視察をされて、現地のジェットロの職員がしっかりと活躍しているということをお聞きいただきまして、ありがとうございます。御評価をいただいで、感謝したいと思っております。

○竹内委員長 次に、山岡達丸君。  
○山岡委員 山岡達丸でございます。  
今回、所信に対する質疑の機会をいただきました。今回、所信に対する質疑に当たりました。私たちの会派で、全ての委員会で確認させていただいている事項がございます。経済産業委員会では、私の方から冒頭そのことを質問させていただきました。

○西村(康)国務大臣 私、当時MRJと呼んで

○大島委員 国会閉会中に海外に、一人か、あるいは二人ぐらいで行つていまして、この間、ラオスに視察に伺いました。

○西村(康)国務大臣 ラオス視察をされて、現地のジェットロの職員がしっかりと活躍しているということをお聞きいただきまして、ありがとうございます。御評価をいただいで、感謝したいと思っております。

○竹内委員長 次に、山岡達丸君。  
○山岡委員 山岡達丸でございます。  
今回、所信に対する質疑の機会をいただきました。今回、所信に対する質疑に当たりました。私たちの会派で、全ての委員会で確認させていただいている事項がございます。経済産業委員会では、私の方から冒頭そのことを質問させていただきました。

○西村(康)国務大臣 私、当時MRJと呼んで

○大島委員 国会閉会中に海外に、一人か、あるいは二人ぐらいで行つていまして、この間、ラオスに視察に伺いました。

○西村(康)国務大臣 ラオス視察をされて、現地のジェットロの職員がしっかりと活躍しているということをお聞きいただきまして、ありがとうございます。御評価をいただいで、感謝したいと思っております。

○竹内委員長 次に、山岡達丸君。  
○山岡委員 山岡達丸でございます。  
今回、所信に対する質疑の機会をいただきました。今回、所信に対する質疑に当たりました。私たちの会派で、全ての委員会で確認させていただいている事項がございます。経済産業委員会では、私の方から冒頭そのことを質問させていただきました。